

先週のイースター野外礼拝のメッセージ

(2022年4月17日・滝のさと自然公園にて) ベン牧師

「復活」 コリントの信徒への手紙ー 15:20

今日の聖書箇所の一節前の19節でパウロは、「(もし復活がないなら)この世の生活でキリストに望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です。」と語っています。

実はパウロは、以前、クリスチャンを迫害し、牢に入れたり、死刑にしたりと、キリスト教が大嫌いでした。なぜなら、彼はユダヤ人の中ではエリート中のエリートで、生まれながらにローマの市民権を持っていたほどに、彼の家は金持ちで、正統派ユダヤ教の名家でした。彼自身もユダヤ教に精通しており、高度な教育を受けた人でした。ですから、イエス様がキリスト(救い主)であるなど、パウロには受け入れ難いことだったのです。しかしある時、ダマスコという街への途中で、光が彼を照らし、光の中にイエス様の声を聞くのです。今まであんなにイエス様を否定していたパウロは、このことから、イエス様の復活を信じ、イエス様を宣べ伝える人へと変えられるのです。(使徒言行録9章参照)

そればかりか、パウロは今までの地位も名誉も家柄も全て捨てました。家からも勘当されたことでしょう。このような体験をした彼が、19、20節の言葉を語ったということこそ、イエス様の復活の確証なのです。

私たちクリスチャンは、「キリスト教」という教えを信じているわけではありません。イエスキリストというお方を信じているのです。キリスト教を含め、すべての宗教が人間の欲や悪に染まった歴史を持っています。しかしイエス様は、罪がないのに私たちの罪を負って十字架で死なれ、三日目に本当に復活して、今も生きておられ、私たちと共にいて導いて下さるお方です。宗教には人を救うことはできません。イエス様こそが私たち一人ひとりを救って下さるのです。

感謝なことに、私たちは聖書を通してイエス様を知ることが出来ます。また、クリスチャンになって、実際に主と共にいて下さるという経験を重ね、それが証となっていきます。たとえ困難や失敗があっても、そこにイエス様は共にいてくださり、私たちを支え守ってくださいます。

--主はよみがえられ、今も生きておられる--これはクリスチャンにとって、教会にとって最大のメッセージです。だからこそ、世界中でイースターがお祝いされているのです。

復活があったからこそ、私たちの人生は変えられ、わたしたちに力が与えられるのです。復活があったからこそ、今も生きておられるイエス様が私たちを導いてくださり、私たちの祈りを聞いて下さるのです。

また、「眠りについた人たちの初穂」という表現があります。眠りについた人というのは、死んだ人という意味です。初穂とは畑の最初の収穫です。初穂を神殿にささげることによって、その畑全体が祝福を受けるといえるのです。すなわち、イエス様が初穂として復活されたということは、イエス様を信じるものすべてが復活するという証拠となったということです。

「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」(ヨハネ3:3)

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」(ヨハネ11:25)

イエス様を信じて新しく生まれる者に、永遠のいのちが与えられ、私たちは、肉体は死んでも永遠に生きるものとされたのです。

いのちは、ギリシャ語で2種類あります。体の命と、霊的な命です。

母の体に宿った命は、やがて人生の終わりで死を迎えます。しかし、クリスチャンは、もう一つ、イエス様を信じた時に与えられる永遠のいのちを持っています。やがてどんな人にも死は訪れ、体の命は無くなるでしょう。しかし永遠のいのちは決してなくなりません。神の裁きの座に立つ時にも、イエスキリストが傍に立ち、弁護して下さいます。そして私たちは永遠の御国に入ります。

イエス様は、私たちにこの確証を与えるためによみがえってくださいました。イエス様は、十字架の死によって、すべての人に訪れる死に勝利して下さったのです。イエス様にあって、私たちは勝利をいただき、御国への希望にあふれて生きるものでありましょう。Happy Easter!

